

海運の重要性を学校教育の場で
～川崎汽船新造 VLCC タンカーおよび名村造船所の見学会を実施～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、会員会社や関係団体と連携して教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、川崎汽船および名村造船所との共催にて、7月11日（水）に「名村造船所 伊万里事業所（佐賀県）」において、同造船所内および川崎汽船向けに建造中の新造 VLCC タンカーの見学会を地元の黒川小学校 4、5 年生など約 50 名を招待し開催しました。本船は名村造船所の初めての自社設計による建造の新鋭船であり翌 12 日“利根川”と命名され中東に向けて処女航海の途についております。

本見学会に先立ち前日 7 月 10 日（火）に、川崎汽船 植山船長、佐々木・原田両一等航海士による本船紹介、船内での生活、世界と日本を結ぶ海運の役割等に関するレクチャーを実施いたしました。児童は、船員の仕事に興味を持ち、見学会への期待に胸を膨らませながら「船長の仕事は指示以外にどんなことがあるの?」「女性船員はいるの?」「『キャプテン』『チョッサー』以外の呼び名はあるの?」など多くの質問をしました。



当日は、初めに名村造船所内を見学し、船が完成するまでの工程の説明を受けながら、バスから建造中の巨大な船体ブロックやプロペラ等を目の当たりにしました。

その後、全長約 339m、幅 60m の巨大な本船に乗り込み、船長・両一等航海士の案内の下船内を見学しました。操舵室では、舵輪やレーダーなどの機器の説明に加え、汽笛を鳴らしたり、双眼鏡を覗いたりなどの体験ができました。甲板では本船の大きさを徒歩で体感するとともに貨物タンクの内部を覗くなど、船の設備を間近で見学しました。また、エンジンルームや COC (Cargo Operation Control room) では、翌日の初航海を迎えて準備中の外国人乗組員との交流の時間も持つこともでき、普段は触れることのない船の世界とそこで働く人々に親しんでいただける機会となりました。

船内見学を終えた児童からは「船にはいろいろな機能や工夫があっておもしろかった」「将来は海に関わる仕事につきたい」などの感想が寄せられ、世界の人々の暮らしを支える海運業の役割と高い技術で海運を支える造船業への理解を深める見学会となりました。

当協会は引き続き会員会社等と連携し、四囲環海の我が国にとって欠かす事のできない海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

